

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

【 ■ ■ ■ 】  
\*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	矢本町立矢本西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	22
児童数	62	54	52	47	49	57	2	323	

研究の概要

(1) 研究主題

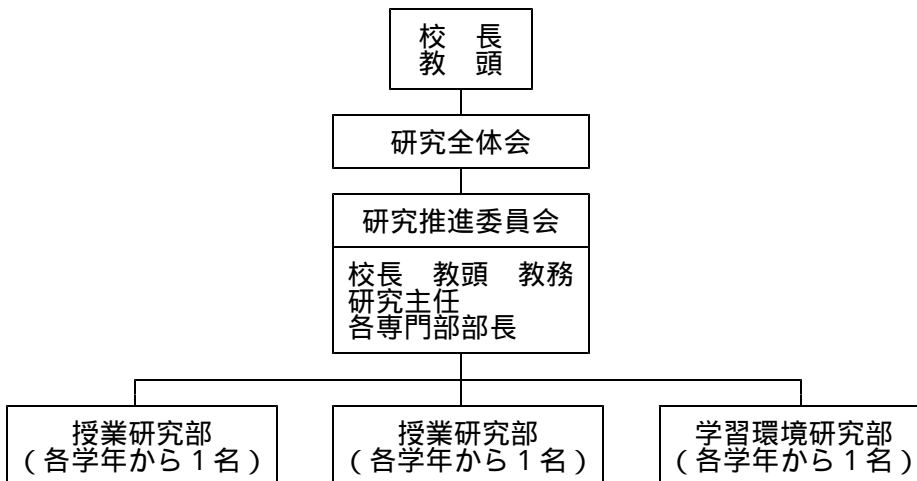
一人一人を生かし，確かな学力の向上をめざす学習指導のあり方  
ー多様な指導方法・指導体制の工夫を通してー

(2) 研究主題設定の趣旨

現行の学習指導要領で求めているのは，子どもたちに，基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力を育むことである。  
本校では，目指す子ども像を「かしこく・心豊かに・たくましく」とし，「かしこく」として，自分の考えをもち，自分で考え，判断し，自分の言葉で話し，自分の体を通して学習する子どもを自指している。  
本校の子どもは，明るく素直であり，与えられた課題には積極的に取り組むとともに，友達や教師との多様なふれあいを求め，分かるまでじっくり学びたいという思いをもっている。  
保護者は「楽しく学習活動に取り組んでほしい」，「学習内容をしっかり理解し，基礎・基本を身に付けて欲しい」，「友達との人間関係をしっかり築いてほしい」という思いをもっている。  
以上のようなことを踏まえ，子ども一人一人が「学ぶ楽しさ」や「分かるおもしろさ」を体感しながら基礎・基本が身に付くよう，多様な指導方法・指導体制の工夫を通して，一人一人を生かし，確かな学力の向上を図るための学習指導を目指し，本主題を設定した。

研究の概要

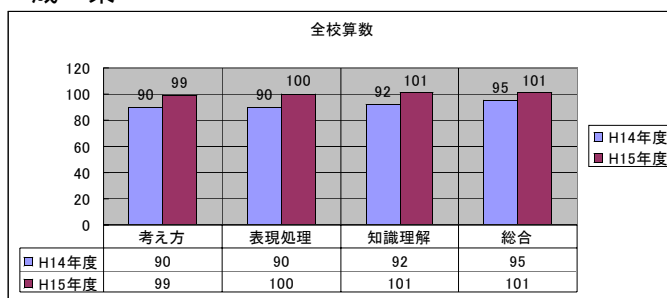
(1) 研究推進体制の工夫  
研究組織



- 各研究組織の活動内容
- アイ 授業研究部.....授業づくりのための指導体制や指導方法の工夫改善
  - イウ 評価研究部.....指導に生かす評価の工夫改善や子どもの実態調査
  - ウ 学習環境研究部...効果的な学習環境の工夫改善

- (2) 研究の実際
- 授業研究部の実際
- ア 指導体制の工夫
    - a 算数科で少人数指導担当教員を学年に1人配置し、2人の学級担任との3人体制で、全ての子どもを指導する。(全学年)
    - b 子どもの理科離れの傾向や基礎・基本の定着の個人差、実験・観察の準備に時間を要する等から理科の指導は、教科担任制で行うこととする。(5・6年) また、国語科の書写についても、専門的な指導を必要とすることから、教科担任制で行うこととする。(4・5・6年)
    - c 国語科については、入門期で、TT指導を行い、一人一人の基礎・基本の徹底を図る。(1年)
  - イ 指導方法の工夫
    - a 習熟度別指導のとらえ方、コース設定の概要、コース選択の仕方、教師が子どもにコース選択の助言をする際の判断基準等を明確にする。
    - b 単元をどのような指導体制で実施するかについて、既習の内容や単元のねらい、子どもの実態を考慮し、集団間等質少人数や習熟度別少人数、TT指導を組み入れて指導する。
    - c 発展的な学習や補充的な学習は、どの場面でどのような方法で、どんな教材を使用して行うか、明らかにする。
    - d 授業づくりの具体的項目を明らかにしたり、指導技術を高めるポイントを明らかにするために「指導力向上読本」を作成し、教師の指導力の向上を図る。
  - ウ 全校授業研究会の運営
    - a 授業研究会でより効果をあげるために、模擬授業、少人数コース毎の参観等を取り入れて、活性化を図る。
- 評価研究部の実際
- ア 年間指導計画の検討
    - a 少人数指導を担当する教員が同一基準で評価できるように、評価の観点や方法、評価基準、さらに「十分満足できる(A)」の判断基準を明記した年間指導計画を作成する。
  - イ 観点別評価一覧表の検討
    - a 評価規準を基にして、一人一人の子どもの学習状況を1時間ごとに評価し、累積すると共に次時の指導に生かせるように観点別評価一覧表を作成する。
    - b 観点別評価一覧表の評価結果と単元テストの結果から評定を決定する。
  - ウ 自己評価・相互評価の検討
    - a 子ども自身が、自らの課題意識をもって学習に取り組み、自分の学習内容をふり返れるように、ふり返りカードを作成する。
  - エ 各種実態調査の実施と分析
    - a 子ども、保護者の意識や実態を正確に把握し、指導に生かすために学力検査、意識調査等を実施し、その変容を分析し、指導に生かす。
- 学習環境研究部の実際
- ア 補充的な学習の工夫(授業外)
    - a 業前の「ステップアップタイム」、放課後の「学びの時間」を設定し、学習内容の補充と強化を図る。
    - b 家庭での学習の習慣化を図るために、学年毎に「家庭学習の手引き」を作成する。
  - イ 効果的な学習環境の工夫
    - a 基本的な学習習慣を身に付けさせるために教室内に「学習の約束」を掲示したり、算数の学習の手助けとなるように「さんずつの広場」を設置し、学習内容に関する掲示をしたりする。
    - b 職員室内に「フロンティア掲示板」を設置し、各学年の取り組みやフロンティア事業に関することを掲示することで、教員の意識を高める。
  - ウ 保護者・地域への啓発
    - a フロンティア通信の発行や学習参観を通して、学校での学力向上フロンティアスクールの取り組みについて啓発活動をする。

(3) 研究の成果と課題  
成 果



左のグラフは、昨年度と今年度の学力テストの結果で、全国平均を100と見た時の本校の平均点の割合である。

集団間等質少人数指導や習熟度別少人数指導、TT指導の実施は、授業に変化をもたらすとともに、教師の指導が行き渡り、個々の子ども達にたいして適切な指導がより可能になった。特に、習熟度別少人数指導の規定を明確にし、積極的に取り入れたことにより、子ども一人一人の学びをさらに保障することができ、子どもが安心して学習に取り組んだり、自分の学びに満足感を得られることができようになった。また、そのことは学習に楽しんで取り組む子どもを増加させ、学習意欲の喚起へもつながった。

学年所属の教師による学力向上会議を実施することで、共同での教材研究が可能になり、子どもの実態把握・指導と評価の在り方・教材教具の活用等についての統一した見解で授業を推進するのに有効であった。また、共同で教材研究することで、教師の指導力の向上を図ることができた。

また、全校授業研究会、フロンティア学習会等を実施することで、教師全員の研究に対する意識を高揚したり、課題の共有化を図ったりすることができ、授業の質的な改善を図ることができた。また、このことによって、子どもの基礎学力の向上を図ることもできた。

年間指導計画に新たに「十分満足できる(A)」の判断基準や単元の指導体制を記述したり、それに合わせて、観点別評価一覧表を作成し、指導と評価の一体化を図ってきたことにより、担当者が同一規準で評価を行うとともに、個に応じた指導を行うことができた。

また、子どもの自己評価能力の育成のために、ふり返る観点を提示したり、感想の書き方を工夫させたことにより、自分の学習を的確にふり返ることができるようになり、習熟度別授業では、適切なコース選択もできるようになってきている。

業前でのステップアップタイム、放課後の学びの時間を設定することで基礎・基本の定着が図られた。また、「さんすう広場」を設置し、学習の手助けになるような掲示をしたり、教材・教具を工夫して授業に臨んだりすることは、子どもの意欲の高揚に効果的であった。

さらに、家庭学習においても「家庭学習のすすめ」を作成・配布し推奨することで、子どもの学習意欲が高まり、時間や内容的にも深まりが見られるようになった。

課 題

算数科における子どもの実態や単元内容に合わせた指導体制の確立に向け、本年度の実践の上にとった指導の積み上げを図っていき、よりよい指導体制(集団間等質少人数、習熟度別少人数、TT、課題別少人数等)の在り方を探る。

習熟度別指導において、発展的・補充的な学習や教材の開発等、それぞれのコースにおいて個々の子どもへの基礎・基本の定着に向けて、指導法を工夫する。

評価について、4観点の細かい判断基準が必要かどうかを含め、年間指導計画や観点別評価一覧表の見直しを図る。また、自己評価についても、自己評価能力の育成を目指し、6年間を見通した系統的な取り組みの計画作成と実践を図る。

家庭学習を習慣化させ定着を図るための方法を探る。  
教師の指導力の向上のための方法を検討し、実践する。

(4) 研究成果の普及の方策

地区学力向上推進協議会での中間報告 平成16年 2月24日：石巻合同庁舎  
石巻地区学力向上推進協議会委員及び管内教員

第1回公開授業研究会 平成16年 5月21日：本校  
町内教員対象

第2回公開授業研究会 平成16年 7月 2日：本校  
管内教員対象

第3回公開授業研究会 平成16年 10月27日：本校  
県内教員対象

(5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

中学校との連携

ア ねらい

中学校の教諭とTT指導をすることで、指導技術を学び、専門性を生かしながら授業の質を高めていく。  
 子どものよさや可能性を中学校の教諭にも見い出してもらうことで、小中の連携を図る。

イ 実施学年と教科

	4年	5年	6年	時数
音楽	歌唱指導 [4年合同×3時間]	歌唱指導 [5の1×2時間] [5の2×2時間]		7
家庭		ミシン指導 [5の1×3時間] [5の2×3時間]	ミシン指導 [6の1×4時間]	10
図工			版画指導 [6の1×6時間] [6の2×5時間]	11
合計	3	10	15	28

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】      15年度からの新規校      14年度からの継続校

【学校規模】             6学級以下                     7～12学級  
                               13～18学級                 19～24学級  
                               25学級以上

【指導体制】             少人数指導                     T・Tによる指導  
                               一部教科担任制                その他

【研究教科】             国語                     社会                     算数                     理科  
                               生活                     音楽                     図画工作               家庭  
                               体育                     その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有      無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

全学年算数TT及び少人数指導、低学年国語TT指導、高学年教科担任制、高学年中学校教員とのTT指導等などの子ども一人一人を生かす様々な指導体制。

規定を明確にした習熟度別指導及び単元の内容や子どもの実態に合わせて習熟度別少人数、集団間等質少人数、TT指導を組み合わせた単元構成。

目標、学習内容、評価規準、評価方法、ABCの評価基準、Aの判断基準を明記した年間指導計画。

評価の観点を1時間に1つに絞り、毎時間の評価を次時の指導と単元の評定に生かせる観点別評価一覧表。

子どもの自己評価の能力を育むふり返しカード。

子どもの家庭での学習の習慣化を図るために、子どもにとって学習の見本として使用できる「家庭学習の手引き」読本。